



シニア グランドホーム
ポート・ヒロック 通信
2026 年 秋号



思い出をつなぐ大切な一冊

本棚に並ぶ一冊の本。そのページをめくると、
懐かしい出来事や大切な人との思い出がよみがえってきます。

今回は、ご入居者の松田様と宮城様に、それぞれの「大切な本」にまつわるお話を伺いました。



松田 様



『詞&エッセー』

「正直な話が」ときりだして
正直でなかったり
ホットコピーを注文にだすと
「ハットコピーですね」と念をおす
顔がほころぶと
ニヤニヤすると云い
しつづ面に会うと
何かあるんだと感ぐるしまつ
ボソボソ、モタモタ云いそびれると
野暮なお人好しが誠実になる

口笛吹く時

歳老いて、ふと思った
これまで投稿したエッセイ等を
まとめてみよう
と
読んでくだされば嬉しいですよ。

今年2月18日、出版社に勤めるご友人に相談し、一冊の本を出版された松田様。本には、ご主人が遺された詩と松田様ご自身のエッセー、そして今も詠み続けている俳句などが収められています。

ご主人は大の本好きで、よく書店へ足を運んでは本を買っていたそうです。「家の中は本だらけだったよ」そう話す松田様の表情からは、ご主人との懐かしい日々が伝わってきます。

松田様のエッセーには、外国を旅した時の思い出や日々の暮らしの中で感じたことなどが綴られています。これまでご自身が書きためてきたものと、ご主人が遺した詩を一冊の形に残したい——。そんな思いから、この本が生まれました。

生前ご主人がよく話していた言葉があります。「詩はつぶやきだよ」何気ない日々のつぶやきや思いが、時を経て一冊の本となり、今も大切に受け継がれています。



宮城 様



『神山誌』



軍用機で嘉手納基地に帰ってきた。
後に妻となる和子、ワイアット大佐、私

American GIs and their generous gifts to an orphan of WWII

James Huth, The Times-Journalist

McKINLEYVILLE — It was a warm, humid night with his years of happy, friendship and love as the family of this young man, Shinsuke Miyagi and his wife, Shinsuke, so they came all the way from Japan.

Miyagi was born in Japan to a poor family. His father lived with other American soldiers, and Miyagi lived with them. They were all struggling to survive — under their wings. Miyagi was a late starter at the age of 15, after suffering a stroke, and Miyagi spent his childhood in the United States.

Several generations of Miyagi's family members gathered to meet Miyagi at the airport. They were exchanged and were re-introduced to each other on the way. A half century after Miyagi and other orphans, they were able to shape Miyagi's life.

The relationship began in 1945, just one year after Miyagi was born. The war was over, and Miyagi was the only one left in his family.

Shinsuke Miyagi and Shinsuke Miyagi in 1945, during their first and only reunion.

ウィリアム・ティーズリさんと42年振りの再会

To me, he was a good American. To me, he was partly father, partly brother, because he was the one who made me go back to school.

Shinsuke Miyagi

"To me, he was a good American. To me, he was partly father, partly brother, because he was the one who made me go back to school."

Shinsuke Miyagi and Shinsuke Miyagi in 1945, during their first and only reunion.

Shinsuke Miyagi and Shinsuke Miyagi in 1945, during their first and only reunion.

宮城様が紹介してくださったのは、ご主人の地元、宜野湾市神山の郷友会から依頼を受けて執筆した『神山誌』です。本の中には地域のことでなく、ご主人の人生の歩みについても記されています。

戦災孤児だったご主人。英語が得意で、学校に通いながら働くなど、若い頃から努力を重ねていたそうです。そんなご主人の将来を応援しようと、地域の方々がお金を出し合い、アメリカの大学への留学を支えてくれました。この出来事は後に「愛のリレー」という題でニュースにもなりました。

そして、アメリカ留学を終え、ご主人が沖縄へ帰ってきた日。迎えに行ったのは宮城様でした。自由に入ることのできなかった基地の中に入ったことがニュースになり、宮城様の教え子たちも驚いていたそうです。その後、お二人は結婚。ご主人は領事館に勤めた後、周囲から「安売りはするな」と背中を押され民間企業へ転職。お給料も倍になり、宮城様は専業主婦に。

「良かったよ」そう笑って振り返る宮城様。一冊の『神山誌』には、地域の歴史とともに、ご主人が歩んだ人生、支えてくれた人々、そしてご夫婦の大切な思い出が刻まれています。本は、文字を残すだけのものではないことがページを開けば、その時の風景や声、大切な人との時間まで、そっとよみがえらせてくれるものなのかもしれません。

お二人にとって大切な一冊は、これからも思い出とともに、その物語をつないでいきます。

台風の影響を受けた夏

今年の沖縄本島地方は台風の接近が相次ぎ、まさに「台風の当たり年」ともいえる夏となりました。6号をはじめ、9号、13号、18号、24号と、たび重なる台風の接近により、日常生活にもさまざまな影響がありました。当施設でも敷地内のガジュマルやヤシの木が強風によって傷むなどの影響がありましたが、幸いにもご入居の方々や建物に大きな被害はなく、無事に過ごすことができました。

接近の予報が出ると、職員総出で敷地内の植栽を安全な場所へ移動したり、屋外の家具や備品を館内へ移動したりと、早めの備えを進めます。また職員が宿直し、万一の事態に備えています。お手伝いが必要な入居者様の居室も確認し、ベランダに置かれている物の取り込みなどをお手伝いしたり、皆が安心して過ごせるよう、万全の体制で備えてまいります。



information

ポート・ヒロック館内のお花屋さん クリスティン・ミュンヘン

花屋オリジナルエプロン作りました♪



制服としてオリジナルエプロンを作成しようと、長い間思案していました。思いつきり派手なデザインにしようか、またはフリルたっぷりの可愛いものにしようか、などいろいろ考えたのですが、黒のエレガントなデザインに落ち着きました。「品よくエレガントに、それで機能性にも優れたエプロンを。」と理想が高く、これだ！と思うものに出会うまで時間がかかりました。

やっと出会えたエプロンは着用するたびに気が引き締まり、とても気に入っています。花屋スタッフでお揃いのエプロンを着用できて嬉しいです♪



ポート・ヒロック館内のお花屋さん

Christine
MÜNCHEN

お問い合わせ ☎090-6631-1961

営業日：月～金曜日 9:00～17:30

定休日：土日祝祭日

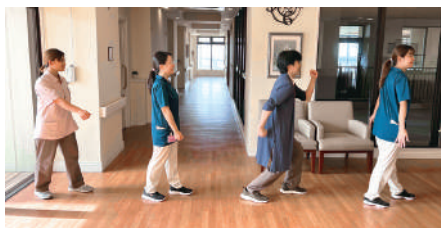


PORT STAFF NEWS

ホッと一息、元気に働ける職場のひみつ

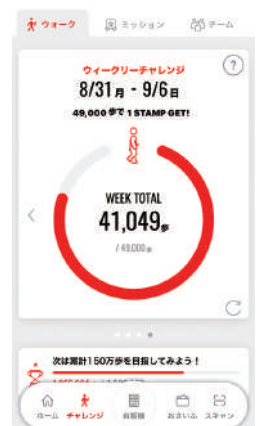


歩いて、競って、健康に！職員歩数チャレンジ



ポート・ヒロックでは、職員の健康づくりと、仕事と生活をより充実させるワークライフバランスの取り組みとして、3カ月間の「歩数チャレンジ」を開催中です！仕事中、何気なく歩いている職員も、実は一日を通してみるとなかなかの歩数。今回は「Coke ON」アプリを活用し、スマートフォンやスマートウォッチで毎日の歩数を計測します。歩けばドリンクがもらえる楽しみも♪

上位者にはうれしい特典もあり、職員同士で楽しく競い合っています。これをきっかけに、休日にもウォーキングを始める職員が増えるかも？仕事中の一歩一歩も、楽しく健康につなげていきます！



一般棟：自立されている方の住まい



■ 心と身体を癒す、屋外インフィニティプール

当施設では、ご入居の皆様に心地よく、豊かな時間を過ごしていただけるよう、屋外プールを整備しています。解放感あふれるプールからは、西海岸の青い海、賑やかな街並みを眺めることができ、まるでリゾートにいるような特別なひとときを楽しめます。

水中での軽い運動から、本格的な水泳を楽しむ方、交流の場としてなどそれぞれの利用方法が☺️「ここで暮らしてよかった」と感じていただける施設を目指しています。(遊泳は夏季限定です。)



■ N様の手作り麦わら帽子

手編みが得意なN様。以前は事務所の職員全員にチェアマットをプレゼントしていただきました。今回は初の帽子作りに挑戦♪平面なマットと違い、帽子は立体的に編むのが難しく半ば諦めかけていたそうなのですが、東京のご自宅でアトリエを構え、機械編みや手編みの教室を運営されていたK様(一般棟ご入居者)のご指導のもと、とても素敵な帽子が完成しました。

手編みならではの風合いや温もりが魅力的な作品に仕上がり、N様もK様も大満足のご様子でした。

介護棟：介護が必要な方の住まい

大ホールにて、「夏祭り」を開催

主に浦添市内で活躍されている「鼓衆ていーび」の皆様による迫力ある獅子舞や、元気いっぱいの子どもエイサーが披露され、会場は笑顔と感動に包まれました。

「太鼓の音が胸に響いた。力を貰いました。ありがとう」
「いい夏祭りだったよ。エイサー見てチムドンドンしたよ」

その日はポート・ヒロック開設19周年と重なり、ご入居の方々と一緒にお祝いする事が出来ました。皆様に日々の感謝の気持ちをお伝えし、ジュースやノンアルコールビールで乾杯♪最後は全員でカチャーシーを踊り、大盛況のうちに終わりました。



港の見える小さな丘



シニア グランドホーム
ポート・ヒロック
(介護付有料老人ホーム)

お問い合わせ

受付時間 9:00~17:00

はなのヒロック

0120-87-1609

〒901-2131 沖縄県浦添市牧港5丁目7番7号

TEL/098-871-3636

FAX/098-871-3637

ポート・ヒロック

検索

